

「高齢者の口腔医学」に焦点

老年歯科医学会が学術大会

日本老年歯科医学会は、「高齢者の口腔医学」をテーマに第29回学術大会（佐藤裕二大会長）を6月22、23の両日、東京都品川区のきゅりあんで開いた。写真。

昭和大学医学部医学教育学講座教授の高宮有介氏による特別講演「人生の最終章を輝かせる緩和ケア―全人的ケア、死から生といのちを考える」や、日台老年歯科医学会合同シンポジウム

「高齢者のMRONJ（薬剤関連顎骨壊死）の最新像」、「在宅（訪問）歯科診療を科

学術用語シンポジウムなど多くの発表があった。メインシンポジウム「脳卒中患者の老年口腔医学」では、大会長の佐藤氏を座長に、神奈川歯科大学准教授の岩淵博史氏、福岡リハビリテーション病院歯科部長の平塚正雄氏、東京医科歯科大学大学院教授の古屋純一氏がそれぞれ「脳卒中と歯科との関係」「障害者歯科医療からみた脳卒中患者への対応」「地域でつなぐ脳

卒中患者の口腔機能管理」について講演。多くの脳卒中患者では抗血栓療法を行っているが、ラクナ梗塞やアテローム血栓性梗塞では抗血小板療法、心原性脳梗塞では抗凝固療法が使われているなど、病体によって注意が必要な点や、多様な機能障害への対応が求められる点、急性期から回復期、生活期を見据えたシームレスな地域連携の重要性などが取り上げられた。

